ここがポイント
育成すべき資質・能力の「三つの柱」から考える

1　「生徒に身に付けさせたい力」とは

☆育成すべき資質・能力の「三つの柱」

○ 何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能）
○ 理解していることやできることをどう使うか（思考力，判断力，表現力等）
○ どのように社会や世界と関わり、より良い人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）

教科・科目の目標と内容を押さえる

授業を計画するとき、まず学習指導要領を確認します。授業は、学習指導要領に書かれた、各教科・科目の「目標」と「内容」に基づかなければなりません。それが「生徒に身に付けさせたい力」の基盤です。各教科・科目の「目標」「内容」は、育成すべき資質・能力の「三つの柱」を踏まえたものになっています。　→　序章

学校教育目標とスクール・ポリシーを押さえる

教員一人ひとりが生徒に対して「こうなってほしい」「こういう力をつけてほしい」という願いを持つことは、とても重要なことです。しかし、授業は、個人ではなく学校が行うものです。学校が定めている「学校教育目標」とこれに基づき各学校で定めたスクール・ポリシーなどを基に「育てたい生徒像」を確認しましょう。その実現のために、教科・科目として、どのような力を身に付けさせれば良いかを考えていくという視点が欠かせません。

１章－２ に詳しい説明がありますので、確認してください。

生徒の実態を把握する

以上のような要素を基にして定めた目標に対し、今、目の前の生徒がどのような状況にあるのかを分析しましょう。何が足りないのか、何が得意で何が不得意なのか。目標と生徒の実態を重ね合わせることで、「生徒に身に付けさせたい力」の具体的なイメージが、おのずと立ち現れてくるでしょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

生徒理解が出発点です！

「身に付けさせたい力」は、生徒一人ひとりの状況に合わせて育んでいくものです。日頃から、生徒の学習全般の傾向、理解・表現の特徴、感じ方などの情報を蓄積するようにしましょう。さらに、既習事項の習熟度、特性やつまずきのポイントなどを把握することが、個に応じた適切な支援につながります。

「年間指導計画」

「年間指導計画」は教材や学習活動の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現を目指していくためのものです。学校の教育目標や生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して計画する必要があります。

「指導と評価の計画」を作成し、指導の時期や指導する順番を考えることが、「年間指導計画」を立てる際に大切になります。

→ ２章－４

「年間指導計画」ここに注意！

単位の修得が認められるためには、１年間（分割履修の場合は２年間）の中で、当該科目の全ての指導事項を取り扱う必要があります。一つの指導事項を複数回取り上げても構いませんが、そのために扱わない指導事項が出ないようにしましょう。

「年間指導計画」については、所属校によって、校内で統一した書式で作成している場合と、個人に委ねられている場合とがあると思います。どちらの場合にせよ、大切なのは、場当たり的に授業を行うことがないようにすることが重要です。他の教科担当の教員から状況を聞き取るなどして、俯瞰的な視点で指導の計画を立てましょう。

探究の道しるべ

① 所属校が学校教育目標やスクール・ポリシー等に「育成したい資質・能力」としてどのようなものを挙げているか調べましょう。

② ①に対して、生徒たちがどの程度目標に近づけているか確認しましょう。

③ ①の目標を実現させるために、②の段階にいる生徒たちにどのような活動を通した働きかけが有効か、考えましょう。

④ ③で考えた働きかけを取り入れた授業づくりを考えましょう。
　単元の導入・展開・まとめの各段階において、どのような働きかけができるか、具体的な活動を当てはめながら単元全体の学習の流れを考えましょう。

授業づくり、学習評価に関する参考資料

○「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校）」
　平成24年７月、平成25年３月　国立教育政策研究所
○「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（高等学校）」
　令和３年８月　国立教育政策研究所
※「学習評価の手引き」　令和４年３月　神奈川県教育委員会
※「指導と評価の一体化の視点からの授業づくり」　令和４年９月　神奈川県教育委員会

※印の資料は神奈川県教育委員会ネットワークシステムポータルサイト からダウンロードできます（内部サイトページ→教育情報共有システム）。→その他の資料はP122へ